琉球大学学術リポジトリ

学生からもらった賞はうれしい!!

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 花城, 梨枝子, Hanashiro, Rieko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41677

学生からもらった賞はうれしい！！

「消費者の自立」担当　花城　梨枝子（教育学部）

明日の授賞式に出席できますかとのメールがあり，急な思いがけない受賞であった．賞状は学長より頂いたが，この賞は，実質的には学生からもらったものであり，何よりもそのことを嬉しく光栄に思う．

受賞の対象となった授業は，社会科学領域の「消費者の自立」である．内容的には，消費者問題とは何か，消費者問題はなぜ発生するのか，消費者問題の現状と対応，責任ある自立・自律した消費者になるにはどうすればよいかを模索する講義で，内容は，以下のようになっている．

１章　生活問題としての消費者問題
　１．消費とは
　２．消費者問題とは
　３．戦後の消費者問題
　４．平成の消費者問題
２章　消費者問題発生の背景
　１．高度大衆消費時代への突入
　２．生産と消費の二極分離
　３．弱者としての消費者
　４．販売方法、支払い方法の変化
　５．多重債務問題
３章　消費者問題と環境問題
　１．大量生産―大量消費―大量廃棄
　２．環境を考えたライフスタイル
４章　消費者行政
　１．消費者の権利と責任
　２．消費者保護基本法、食品衛生法、規格に関する法律，家庭用品品質表示法、消費生活用製品安全法，ＰＬ法
　３．契約とクーリングオフ，消費者契約法，特定消取引法

実は，教育学部で担当している専門科目は，数年前からすべてパワーポイントによる授業に移行しており，そこでは視聴覚の工夫もあてはまるが，この授業では特別な工夫をしているわけではない．しかし，消費者法や生活経済学の学問的な知識を，自分の生活の中で実践とも連動させて理解してほしいと考えており，そのための工夫はしているつもりである．一般的なので参考にならないかもしれないが，以下に述べる．

１．オープンマインドな環境づくり

学生評価では，「経済や消費者法を身近に感じることができ，わかりやすい授業」との感想が多い．レベルを落とさずに，理解させるためには，一方通行ではなく双方向の授業にしたいと考えている．従って，学生からの質問も，私からの学生への質問も多い授業となるよう心がけている．そのためには，まず前提として，クラス全体に質問をしやすい環境を意識している．間違えたから恥ずかしいと思わないようにして欲しいということを，最初の授業で強調する．わからない時に，わからないということに抵抗を覚えない雰囲気は，どの授業においても大切であると考える．

２．学問を実生活と関連づける

テレビや新聞のニュースで消費者問題に関連することがあれば，すぐに取り上げるようにしている．また，例えば経済のグローバル化について話す時でも，スーパーの野菜はどこからきているのか調べるよう課題をだしたり，自分の着ているＴシャツの原産国を調べさせたり，ユニクロのＴシャツはなぜ安いか討論させたりしながら，講義している．多重債務関連の内容では，利息制限法，出資法をあげる前に，学生の受給している奨学金月８万円コースの場

合にどうなるかを示す．４年間で借金額が384万円になること，それを年3%の利子率，20年で返すと，月返済額21,296円だが，総返済額は511万，利息だけで127万もかかることを話すと，学生は驚愕する．それを利子率 29%の消費者金融から借りることになると，総返済2234万，利息は1850万円に膨れることを示すと学生の驚きはさらに増す．沖縄県は54.75%の高金利が許されている日賦貸金業者数が人口あたり日本一であり，54.75%だと一般のサラ金どころではないと話すと，教室がどよめく．学生はまだ生活経験が浅い．そこで学生自身の経験している身近な例を具体的に示し，そこを起点に，関連する事象の解釈や抽象的な話に移ると，実感をもって理解させられるように感じる．暗記する知識ではなく，生活実感を伴った知識は，生きて働く実践力になると考える．

３．実物提示

授業の中の教材は，できるだけ実物を直接見せるようにしている．例えば，フェアートレードの講義では，私はフェアートレードで買ったワンピースを着て，フェアートレードで売られている商品を持ってくる．ネグロス島の板チョコレートは，１枚で20ブロック入っているので３枚も買えば，クラス全員で楽しむことができる．これも勉強と，一緒に食べるが，学生の笑顔は私も嬉しい．フェアトレードマークのついたスターバックスコーヒーやエコマークのついた商品，発色剤を使っていない生協のハムやポークの缶詰．食のトレイサビリティーでは，学生の携帯電話をかりて，私が昨晩食べた牛肉の固体識別番号をその場で入力し，教室の中で生産者情報をみることができる．

４．聞く，討論する，発表するも学力

学力は，知識だけではない．討論して自分の考えていることを自分の言葉でまとめ，相手にわかるように話すことのできる能力も学力である．発言する能力は，とても大切だと考えるので，１コマの授業で５～６人をあてて質問をし，発言させている．そのプロセスで学生の名前を自然に覚えている．たまたま，ＦＤの公開授業でこの授業を参観した教員の，授業の感想が，「専門科目でもないのに，よく学生の名前を覚えていますね」ということだった．学生の名前を覚えるということは，当たり前のことだが，授業の工夫の重要な要素であると思う．学生には，ほとんどが，好みの席がある．同じ学部の友人同士で座っているので，誰がどの席にすわっているかの空間的な認知力も働かせて，授業の後半には，ほぼ全員40人近くの名前を覚えている．学生の名前を覚えてよいことのひとつは，眠そうな学生に質問できることである．驚かせて目をパッチリさせるのは，私の特技でもある．

５．発表

最後の授業では，自分で調べたテーマを時間５分と決めて発表させている．みんな，もう少し長く発表したいようだが，コマ数内で必要な内容を終えるには，あまり時間をかけるわけにはいかない．授業の半分をすぎたとこから，自分の好きなテーマを探すように指示し，当日は，タイマーを目の前において，その時間内で発表させる．昨年は，以下のテーマがでてきた．

- 遺伝子組み換え食品
- 自分でできるロハスな生活
- 自分のだしている廃棄物の計量
- 環境問題，
- 観光みやげの表示
- 地産地消
- クレジットカード
- 多重債務問題
- 製造物責任法
- 悪質商法―特定消取引法，消費者契約法

以上が，授業の工夫というよりも，心がけている

ことである．年齢のせいか，年々授業がつらい．老眼に近眼，乱視なので，授業でも，眼鏡を数個使いわけながら，学生の顔も見えにくくなっている．ちぐはぐなことも多くなり迷惑をかけているかもしれないが，いい評価をつけてもらい，学生に感謝する．